

台風第15号に対する農作物の事前・事後対策

令和8年8月10日

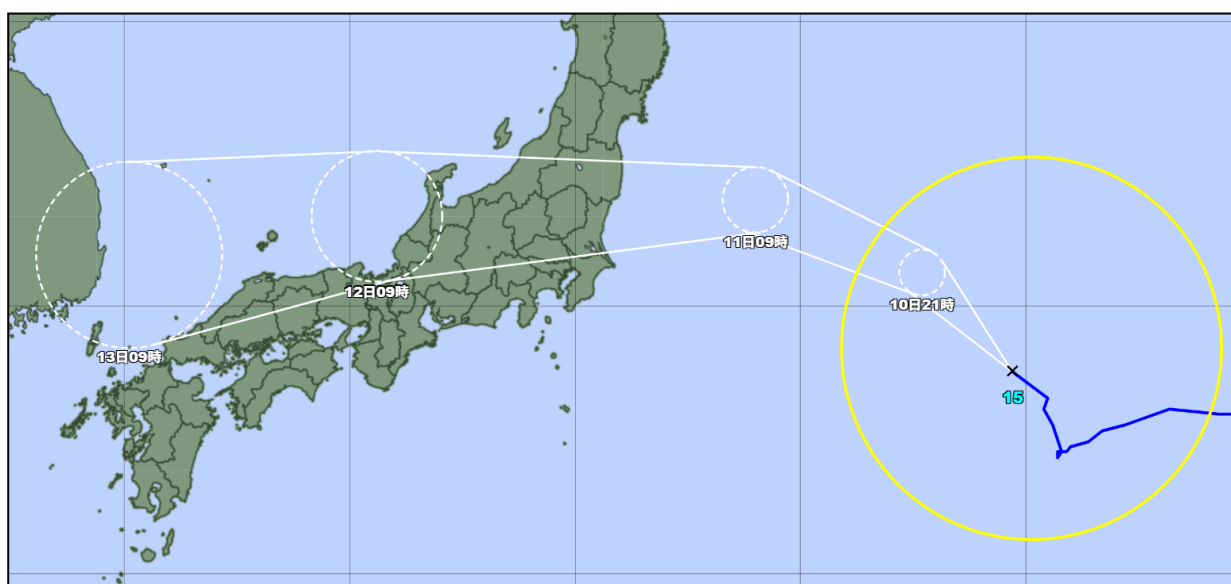
農業技術課

台風の現況と予想

台風第15号は、10日午前9時現在、日本の東にあって、北西へ進んでいます。中心の気圧は990ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は20メートル、最大瞬間風速は30メートルとなっています。

11日午後には、東北南部から関東に接近・上陸する可能性があります。その後、西へ進み、11日から12日かけて、日本列島を横断する予報です。

台風は今後、山梨県に影響が出る可能性がありますので、最新の台風情報を確認し、対策を徹底して下さい。



(出展 気象庁台風経路図 8月10日午前9時現在)

共通事項

- ① 台風情報に注意し、事前対策は早めに実施する。台風の接近中は、強風等による人的被害の危険性が高まるので、大雨や強風が収まるまでは、見回り等を行わない。また、大雨が収まった後でも増水した水路その他、危険な場所には近づかないなど安全には十分注意し、転落、滑落事故に遭わないように慎重を期す。
- ② ハウス等については、強風に備え、金具等の緩みを点検、補修する。マイカ線等による被覆資材の固定、妻面の補強など、暴風対策を実施する。飛来物による損傷を防止するため、飛ばされる恐れがあるものは、片付けておく。また、農機具庫や作業小屋等についても必要な補修を行う。
- ③ 収穫期を迎えた農作物については、集出荷施設等からの指示に従って収穫を行い、未熟なものは収穫しない。

果 樹

〔事前対策〕

- ① 冠水、滞水の恐れのあるほ場では、排水路を点検、補修する。
- ② 傾斜地等では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。
- ③ マルチ等を敷いてあるほ場では、強風によりマルチが飛ばされたり、捲かれたりしないようにマルチ押さえを補強しておく。

＜棚栽培果樹＞

- ① 強風による棚のゆれや倒壊を防ぐため、つか杭を追加設置する。
- ② ブドウでは、新梢が強風により棚から外れるのを防ぐため再誘引を行う。
- ③ ブドウでは、大雨による裂果を防ぐため排水対策を徹底する。
- ④ 収穫中や収穫前のブドウおよびスモモ・モモ・ナシの棚栽培で防風ネットが利用できる園では、棚の周囲に設置する。

※簡易雨除けを設置してあるほ場では、強風でビニール等が飛ばされないよう、補強を行う。

＜立木果樹＞

- ① 倒伏や主幹部の損傷を防止するため、支柱などで固定する。帆柱が設置してあるモモ園等では針金を点検し補修する。
- ② 収穫前の園では、枝のゆれによる傷や落果を防ぐため、風の当たりやすい枝を中心に支柱などで固定する。

＜施設果樹＞

- ① 施設栽培では、棚やパイプ等の骨材の点検を行い、必要に応じて補修や補強を行う。特にビニールがまくられないようにマイカ線等の点検を徹底する。
- ② ブドウの雨除けハウス等では、施設の倒壊を防ぐため、風が強くなる前にビニールを巻き上げる。簡易雨よけは、マイカ線でビニールを固定する。

〔事後対策〕

- ① 園地が滞水している場合は、速やかに排水対策を行う。また、傾斜地で根元の土壌が流亡している場合は、土寄せを実施する。
- ② 樹が倒伏した場合は、台風通過後直ちに、根を切らないように樹を起こし、根元に土を寄せ支柱等で固定する。
- ③ 太枝が裂けた場合は、裂傷部をビニールで覆い、縄等で結束する。なお、裂傷がひどい場合は、裂傷部を平らに剪除し、ゆ合剤を塗布する。
- ④ ブドウは、枝や新梢の再誘引、カサのかけ直しを行う。また、葉ズレ、カサズレ、打撲のひどい果粒は摘粒する。
- ⑤ 落果した果実は、病害の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出するか、土中に埋める。
- ⑥ ほ場を見回り、裂果や果実腐敗病が発生している場合には、速やかに除去する。特に、ブドウでは裂果が発生しやすいため注意する。
- ⑦ 強風や雨により、枝葉や果実等の損傷や泥のはね上がりなどから、病害の発生が心配されるため、JAの指導や防除暦に従い薬剤防除と発病果などの除去を徹底する。
- ⑧ 収穫後のほ場においても、防除暦に従い薬剤防除を徹底する。
- ⑨ 施設栽培では、棚やハウスの骨材、ビニール、各種の装置、機具、機械等を点検し、破損のある場合は修理する。

野 菜

【事前対策】

- ① ほ場周辺の排水路を点検、補修、整備し、排水路からの逆流防止のため、ゴミ等を取り除く。また、ほ場内には排水溝を設け、畝間の排水性を確保する。
- ② 風の強く当たる地域では、ほ場周辺に防風ネットを設置し、支柱や固定具の点検を行う。
- ③ ハウスや雨除け施設などの支柱、基礎及び接合部を点検・補強するとともに、マイカ線等による被覆資材の固定状況を確認し、施設の被害防止に努める。
- ④ 強風による飛しょう物でハウス等の施設が損傷しないよう、周辺の清掃を行うとともに、不要な資材や農機具等を固定又は収納しておく。
- ⑤ ナス、トマト、キュウリ等は、倒伏を防ぐため、支柱の補強、固定、誘引等を行う。
- ⑥ 収穫期を迎えているものは、台風情報に注意し、必要に応じ速やかに収穫する。
- ⑦ スイートコーンでは、受粉期以降から収穫前までの生育段階において、雄穂を切除して草丈を低くするトップピング処理を行うことで、倒伏軽減効果が期待される。

【事後対策】

- ① 滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ② 茎葉の損傷や泥のはね上がり、汚水の浸入等により、疫病、菌核病などの病害発生が懸念されるため、発生状況を確認し、防除基準に従い適切な防除を実施する。
- ③ ナス、キュウリ、トマト等は、キズ果を早めに除去し、樹の負担の軽減を図る。
- ④ 倒伏したものは速やかに引き起こす。この際、根を切らないように注意する。ただし、スイートコーンは、無理に引き起こすと根を傷めるので、原則そのまま管理する。
- ⑤ 冠水や強風により生育が停滞した作物については、排水後に追肥や葉面散布を行い、生育回復を促す。
- ⑥ ハウスや雨除け施設等は、安全を確認した上で速やかに点検し、破損箇所の補修を行う。

花 き

【事前対策】

- ① 野菜の事前対策①～④に準拠して、被害防止に努める。
- ② 露地切り花は、フラワーネットや支柱などの点検・補強を行い倒伏防止に努める。
- ③ 鉢花の露地ベンチ栽培では、ベンチに固定できる鉢利用（C鋼鉢）や穴あきトレーを利用するなど倒伏防止に努める。

【事後対策】

- ① 冠水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ② 露地切り花が倒伏した場合は根を切らないように引き起こす。
- ③ 茎葉の損傷により、べと病やうどんこ病、灰色かび病など病害の発生が懸念されるため、防除基準に従い予防散布を徹底する。

水 稲

【事前対策】

- ① 浸水・冠水害を防止するため、排水路の点検、補修、ゴミの除去を行う。
- ② 事前に水口、排水口をふさぎ、水の流入を防ぐ。
- ③ 水を深めに張り、株元を保護する。

【事後対策】

- ① 冠水した水田では、早急に排水に努め、新鮮な水を灌漑する。
- ② 強風で葉がこすれると、白葉枯病が発生することがあるので、発生を確認した場合はただちに薬剤散布を行う。

大 豆

【事前対策】

- ① ほ場周囲に排水溝を設置する。
- ② 滞水しやすい部分には、あらかじめ溝切りをする。

【事後対策】

- ① 滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。

畜 産

【事前対策】

- ① 畜産施設については、損傷、倒壊等を避けるため早めの点検を行い、必要に応じて補修を行う。
- ② 畜産施設への浸水の恐れがある場合、溝を掘るなどして排水に努める。また、畜舎への浸水等による家畜への被害に備え、事前に避難場所の確認などを行う。
- ③ 停電や断水等への対応を確認し、必要に応じて発電機等の手配をするとともに、搾乳作業やバルククーラーの冷却に支障のないよう、万全を期す。

【事後対策】

- ① 飼料作物
 - ・冠水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。
- ② 家畜
 - ・個体観察の徹底、疾病の早期発見と蔓延防止に努める。
- ③ 畜舎
 - ・浸水等によって変質した飼料は廃棄し、飼料タンク内の点検や飼料庫の通風を促す。
 - ・畜舎、牧柵、防鳥ネット等の施設の破損、汚染がないかを確認し、必要に応じて補修、洗浄、消毒を行うよう努め、疾病等の未然防止に努める。
 - ・堆肥舎、牛舎から流出した堆肥や家畜ふんは、速やかに回収し消石灰等散布を行い、悪臭等の発生抑制に努める。
 - ・雨水等の流入により濡れた敷料は除去し、乾燥した敷料に交換する。